Going! PCO

神奈川
中学生が海自第2術科学校で職場体験
技術体験を通じて海上自衛隊への理解が深まる

神奈川地方協力本部は令和6年11月7日、海上自衛隊第2術科学校で実施された横浜市立根岸中学校の「総合的な学習の時間」を支援し、自衛隊に興味を持つ2年生の生徒5人が参加しました。

海上自衛隊第2術科学校は、神奈川県横須賀市に所在する教育機関で、艦艇運用に必要な技術者を育成することを目的としています。

ここでは、エンジンや機械装置の操作・整備、電気や通信システムの運用など、技術分野に特化した専門教育が行われています。

プログラムは応急工作員（※）による説明から始まりました。生徒たちは防火服や防護マスクの試着体験を行い、最初は「重たい」「暑い」と動きづらそうにしていましたが、写真撮影ではポーズを決めるなど、楽しそうな様子が見られました。

防火服などの装着体験

次に、ガスタービン施設で1万3500馬力の大きなエンジンの起動・停止を役割分担をして体験。耳を保護するための防音用ヘッドホンを装着しても感じるエンジン音の迫力に驚きながらも、手際よく作業を進めていました。

その後、第2術科学校の生活スペースを見学し、昼食を体験喫食。生徒たちはボリュームのある食事を完食し、昼休みには海上自衛隊体操にも参加して元気に体を動かしていました。

午後のプログラムでは、ディーゼルエンジンの仕組みについて学んだ後、トルクレンチを使ったネジ締め体験を実施。生徒たちは「どのくらいの強さでネジを締めたか」をクイズ形式で探り、会場は盛り上がりました。

最後に資料室で海上自衛隊の歴史を学び、自衛官との懇談を経て、「総合的な学習の時間」のプログラムは終了しました。

帰りのバスの中では「楽しかった」「自衛隊のイメージが変わった」と笑顔で話す生徒たちの姿が印象的で、今回の体験を通じて海上自衛隊への興味がさらに深まった様子でした。

※護衛艦、掃海艇などに乗り組み、火災や浸水から艦を守る仕事をしています。また、船体や機械部品などが損傷した際に溶接や旋盤の技術を活用し、部品の作成や修理を行います

栃木
新たな広報大使「りく」任命式を実施
公式キャラクターの今後の活動に大いに期待

栃木地方協力本部は令和6年11月5日、栃木地本公式キャラクター「広報戦士・とちマモ3兄弟」の一員である「りく」の広報大使任命に伴い、辞令書交付式を行いました。

「広報戦士・とちマモ3兄弟」は、令和4年3月に公募で誕生した栃木地本の公式キャラクターで、グッズやポスターなどさまざまな広報活動に活用されてきました。今回、2次元の世界を飛び出し、栃木地本の新たな広報戦力として生まれ変わった「りく」は、広報イベントを中心に活躍が期待されています。

辞令書を交付される「りく」

辞令書交付の際、名前が呼ばれると「りく」は緊張した様子で本部長室に入室し、加藤本部長から辞令書を受け取りました。栃木地本広報大使としての重要な任務を正式に授かった「りく」は、今後の広報活動に向けて、精いっぱいの敬礼で意気込みを示しました。

栃木地本は、今後「りく」を通じて、より広範な層への広報活動を行い、自衛隊に対する親近感を醸成し、理解と関心を深めてもらえるように活動を進めていく方針です。

愛知
小学校で自衛隊員が職業インタビューに対応
小学生16人が仕事の魅力や疑問を質問

愛知地方協力本部豊田地域事務所は令和6年10月15日、豊田市内の寿恵野小学校で行われた職業インタビューに参加しました。

この行事には、警察、消防、民間企業、自衛隊が参加し、それぞれの教室で小学生インタビュアーの質問に答えました。

自衛隊の職業インタビューには、豊田地域事務所の広報官である石倉1等陸曹と、現在同所で臨時勤務中の女性自衛官、堀3等陸曹が参加しました。

小学生によるインタビューの様子

2人は自衛隊の仕事内容や職業としての魅力について、小学生たちからの質問に丁寧に答えました。

男子児童13人、女子児童3人の計16人がインタビュアーを務めましたが、特に女子児童からは「女性でも男性と同じ仕事をしているのか？」「結婚や出産後も自衛隊を続けられるのか？」といった質問が寄せられました。

堀3曹は2児の母親である自身の経験を基に、女子児童に対してわかりやすく答えていました。

インタビュー終了後、児童たちからは「実際に話をしてみると優しく丁寧に答えてくれて印象が変わりました」「女性も活躍できる職業だと知り、将来自衛官になりたいと思いました」などの感想がありました。

最後には記念撮影が行われ、職業インタビューは無事に終了しました。

青森
海自入隊予定者フォローイベントを開催
大湊基地での体験を通じて業務や生活を体験

青森地方協力本部むつ地域事務所は令和6年12月16日、海上自衛隊大湊基地で、海上自衛隊入隊予定者を対象としたフォローイベントを実施しました。

このイベントは、大湊地方総監部の支援を受け、入隊予定者の疑問や不安を解消することを目的として企画されました。

当日は、青森県内から44人の入隊予定者が参加し、さまざまな体験を通じて自衛隊の業務や生活について理解を深めました。

最初に参加者は、海上自衛隊唯一の民間所有でない自前の施設である1万トンドライドックを見学しました。この貴重な施設では、通常目にする機会の少ないドック内での艦艇の点検作業を間近で観察し、艦艇整備の現場に触れることができました。

艦内での隊員との交流

続いて、隊員食堂での体験喫食が行われました。

参加者は、実際の食事メニューを味わいながら、隊内の食生活を体感しました。リラックスした雰囲気の中で食事を楽しむことで、隊内生活の一端を知る貴重な機会となりました。

午後には、停泊中の護衛艦「らくま」と「おおよど」を見学しました。艦内では、各種装備の説明を受けるとともに、勤務する隊員との交流が行われました。

特に、新隊員時の訓練内容や生活環境について、先輩隊員が丁寧に質問に答える場面では、参加者が真剣に耳を傾ける姿が見られました。

イベント終了後、参加者からは「さまざまな職種があることが分かり参考になった」「先輩隊員の話を聞いて不安が和らいだ」といった感想が寄せられました。

このフォローイベントを通じて、入隊予定者は海上自衛隊の業務や生活への理解を深めるとともに、不安を軽減する貴重な経験を得ることができました。

香川
FUNTAK高松空港まつりに参加
空自の協力でトークショーや飛行展示が盛況に開催

香川地方協力本部は令和6年12月15日、高松空港ターミナルビルで行われた「FUNTAK高松空港まつり2024」に参加しました。

「FUNTAK」は、「FUN（楽しむ）」と高松空港のエアポート・コード「TAK」を組み合わせた名前で、来場者が楽しい時間を過ごし「地域に愛される空港」を目指すイベントです。

パイロットトークショーの様子

香川地本は、ターミナルビル内のステージや屋上に設けた広報ブースで、さまざまな活動を行いました。

航空幕僚監部からブルーインパルス飛行隊長を務めた遠渡2等空佐と、航空自衛隊第4航空団第11飛行隊所属で香川県出身の現役ブルーインパルスのパイロット幾香1等空尉の協力を得て行ったパイロットトークショーやサイン会、航空自衛隊戦闘機の操縦桿展示などです。

また、航空自衛隊航空支援集団および第1輸送航空隊の協力のもと、KC-767空中給油輸送機の展示飛行も行いました。

全国からの応募が寄せられたトークショーは、地元の高校生と中学生が司会を務める中で進行されました。パイロットになるまでの道のりや体験談が語られ、将来パイロットを目指す学生たちからの質問も寄せられ、会場は終始盛り上がりました。一方、飛行展示ではKC-767空中給油輸送機が空港上空を2回飛行し、屋上や空港周辺施設では、写真や動画を撮影しようとカメラを構える来場者の姿がたくさん見られました。

広報ブースを訪れた来場者からは「トークショーが楽しかった」「空自の航空機を間近で見られて感激した」「貴重な経験ができた」といった感想が寄せられ、イベントは大いに盛り上がりました。

熊本
企業主など部隊研修で自衛隊の魅力を体験
空自築城基地と陸自小倉駐屯地で装備や活動を見学

熊本地方協力本部は令和6年11月23日と24日の両日、航空自衛隊築城基地と陸上自衛隊小倉駐屯地で、令和6年度の企業主等部隊研修を行いました。

この研修では、援護協力企業の企業主の皆さんに、自衛隊の装備品や史料館、厚生センターなどを見学していただき、自衛隊についてさらに理解を深めてもらうことを目的としています。

装備品の見学

また、就職援護の基盤を広げるため、県内の企業から5社7人の方々に参加していただきました。

初日は、築城基地航空祭の前日見学会が行われ、戦闘機の機動飛行や装備品展示、警備犬の訓練などを見学しました。参加者は、戦闘機を間近に見て、その迫力に驚くとともに、とても感動していました。

また、警備犬を巧みに操る隊員の姿には、思わず感嘆の声が上がり、警備犬との強い絆と一体感に心を打たれていました。

2日目は、小倉駐屯地で駐屯地の説明や史料館の見学、装備品展示、厚生センターの見学が行われました。参加者は、隊員から説明を聞きながら、歴史的な装備品や自衛隊の歴史に興味深く触れていました。

また、偵察用オートバイや軽装甲機動車の見学時には、使用目的や操縦資格について熱心に質問し、自衛隊の車両にも大きな関心を寄せていました。

研修終了後、参加者からは「戦闘機の迫力を間近で見て、すごく感動しました」「自衛隊の装備品や歴史について知ることができてよかった」「隊員と直接話すことができ、非常に有意義な時間でした」など、うれしい感想をいただきました。

研修の最後には、集合写真を撮影するなど、楽しいひとときを過ごしていました。

大阪
高校生、陸上自衛隊で職場体験
団結と規律を学び、自衛隊を身近に感じた3日間

大阪地方協力本部阿倍野出張所は令和6年11月27日から29日の3日間、陸上自衛隊大津駐屯地で大阪市天王寺区にある興國高校の職場体験を実施しました。

チームミッションで一致団結

興國高校は、生徒数の多い大阪府内の私立高校で、近畿圏でも人気のある学校です。これまで20年にわたり、主に海上自衛隊で職場体験を行ってきましたが、陸上自衛隊での体験は昨年に続いて2回目となります。

今回は、キャリアトライ公務員コースの2年生36人と教員3人が参加しました。

体験内容には、基本教練や自衛隊体操、ロープワーク、救急法体験、装備品見学などがありました。

また、担当教諭からのリクエストに応じて、体力検定課目や格闘訓練、地図判読（歩測やコンパス行進を含む）、さらにチームミッション形式の障害走も体験しました。

これらのプログラムは、陸上自衛隊中部方面混成団第109教育大隊の協力のもと、安全に配慮して行われました。

特にチームミッションでは、生徒たちは最初こそ余裕の表情を見せていましたが、課題を進めるうちに体力や筋力、柔軟性が試される場面が続き、次第に息が上がったり、真剣な表情になったりする様子が見られました。それでも、生徒同士で互いに声を掛け合いながら励まし合う姿が印象的で、全員で障害走をやり遂げました。

この体験を通じて、自衛隊の「団結」「規律」「士気」の大切さを肌で感じることができたようです。

体験を終えた生徒たちは「きつかったけど、楽しかった」「自衛隊の魅力がよく分かった」「警察や消防も考えていたけど、自衛隊も進路として考えたい」など、前向きな感想を笑顔で語ってくれました。

和歌山
災害時に備える防災スクールを開催
身近な事例を通して事前準備の大切さを学ぶ

和歌山地方協力本部御坊地域事務所は令和6年11月5日、和歌山県立日高高校中津分校の全校生徒43人が参加する防災スクールを支援しました。

心肺蘇生法の一連の流れを訓練

はじめに、広報官が防災講話を行い、災害に備える重要性や自衛隊の災害派遣活動について説明しました。

その後、生徒たちは止血法や簡易担架の作成、心肺蘇生法などの体験型の実習に加え、新聞紙を使った簡易スリッパやごみ箱の作り方を学びました。

特に心肺蘇生法の実習では、昨年8月、和歌山県有田郡有田川町の有田川で陸上自衛隊和歌山駐屯地第304水際障害中隊の隊員が溺れている男性を発見。その後、岸まで引き揚げ、救急車を要請するとともに、心臓マッサージなどの心肺蘇生法で命を救った実例が紹介され、災害時などでの応急処置の重要性が強調されました。

講話や実習を受けた生徒たちからは「自分たちも人助けができるようになりたい」「この防災スクールで学んだことを役立てたい」といった感想が聞かれ、熱心に実習に取り組んでいました。

実習終了後には「自衛隊の災害派遣活動はすごい」「自衛隊の活動に興味がわいた」といった声も寄せられました。

大阪
大阪地本、冬の募集キャンペーンを実施
全員参加で魅力を発信し、大きな成果を獲得

大阪地方協力本部は令和6年12月2日から22日までの3週間にわたり、「大阪地本募集冬のキャンペーン（冬キャン）」を実施しました。

このキャンペーンは、全国規模で行われた「サマーキャンペーン（サマキャン）」を踏まえたもので、既職者を含む募集対象者に対して自衛隊の魅力を広く発信するため、大阪地本の総力を挙げて取り組んだものです。

商業施設内での広報活動

冬キャンでは、サマキャンで成果を上げた大規模商業施設や利用者が多い鉄道駅を主な活動拠点とし、期間中毎日、各隊や地区隊の部員が現地に配置されました。無料ガラポンを設置するなど、来場者が楽しめる工夫を凝らしながら、積極的に通行人に声をかけ、広報活動を展開しました。

普段は事務職として直接的な募集業務に携わらない部員も参加しました。最初は声をかけても立ち止まってもらえない状況に戸惑いを感じることもありましたが、地区隊広報官のアドバイスを受ける中で次第に声かけの方法を学び、募集対象者の情報を得ることができるようになりました。

今回の冬キャンでは、広報活動を通じて、その場で志願票を記入する人も現れるなど、大きな成果を得ることができました。

また、現場の広報官が「情熱と使命感」を持って日々の募集活動に取り組む姿を体験したことで、全ての部員が大阪地本の任務と使命を改めて実感する機会となりました。

和歌山
掃海艇で体験航海と特別公開を実施
地元協力団体と連携し280人が参加

和歌山地方協力本部は令和6年12月13日から15日の3日間、海上自衛隊阪神基地隊所属の掃海艇「あおしま」の協力を得て、新文里港（田辺市）を拠点に体験航海と特別公開を実施しました。このイベントは昨年に続き2年連続の開催となりました。

特別公開の掃海艇「あおしま」

初日の13日には、地元協力団体が主催する入港歓迎行事が行われ、田辺市副市長や高岡本部長らが参加し、「あおしま」の入港を祝いました。その後、出席者や関係者を乗せた体験航海が実施されました。

14日と15日は、募集対象者やその保護者、学校関係者、さらにSNSで募集した参加者を対象に、午前1回・午後1回の体験航海を予定していましたが、両日とも強風の影響により午前中の航海を取りやめ、特別公開に変更。午後の体験航海は予定通り実施されました。

参加者は受付と手荷物検査を終えた後、乗艇開始までの間に岸壁で掃海艇との記念撮影を楽しみました。

乗艇が始まると、笑顔で掃海艇に乗り込む様子が見られました。

体験航海では、約13・5kmのコースを巡り、艇内の見学や乗員によるラッパ吹奏、掃海具等の装備品の訓練展示などを通じて掃海艇について学びました。

また、参加者の中から選ばれた1人が「入港用意」の号令をかけ、その号令により入港作業が行われ無事に航海を終えました。

体験航海終了後、参加者からは「掃海艇に初めて乗りました。意外に大きく感じました」「船体が木製と聞いて驚きました」などの感想が寄せられました。

今回の体験航海と特別公開には、3日間で約280人が参加し、無事に終了しました。

山形
みちのくALERT2024に参加
地域の防災力向上に貢献する連絡幹部の役割

山形地方協力本部鶴岡出張所は、令和6年11月18日、「みちのくALERT2024」の一環として実施された鶴岡市の災害対策本部設置・運営に関する図上訓練に参加しました。「みちのくALERT2024」は、陸上自衛隊東北方面隊が東北地方の自治体や関係機関と連携し、実際の災害に備えて行う大規模な災害対応訓練です。自治体との協力体制を強化し、スムーズな初動対応につなげることを目的に、毎年実施されています。

今回の訓練では、鶴岡市内で震度6強の地震が発生し、建物の倒壊や沿岸部での津波被害が発生する想定のもとで行われました。鶴岡出張所所長は、災害対策本部の連絡幹部（LO）として任務を担当し、発災直後の情報収集、関係機関との調整、上級機関への報告要領を演練。その後、地域担任部隊である陸自第20普通科連隊重迫撃砲中隊のLOに任務を引き継ぎました。

情報収集や関係機関との調整

鶴岡市を含む庄内地方には自衛隊の駐屯地がなく、最寄りの陸上自衛隊神町駐屯地からでも移動に約2時間を要します。そのため、発災直後の対応を担うLOとしての役割は、極めて重要です。訓練を通じて、初動対応の迅速さがその後の活動に大きく影響を与えることを改めて実感しました。

実際に、令和4年12月末に鶴岡市内で発生した土砂崩れ、令和6年1月の能登半島地震などの際も、鶴岡出張所所長が災害対策本部のLOとして連絡調整を担当し、迅速な情報共有に貢献しました。

近年、各種災害が頻発する中、図上訓練を最大限に活用し、関係機関との良好な関係を維持・構築するとともに、日頃から地域担任部隊との連携を深めることが、いざという時の円滑な任務遂行に不可欠であると再認識しました。

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋　隆志(たかはし　たかし)
◇電　話 :03−5227−2468　（平日 09:00～16:00）
◇メール :jkazokuka@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治　雅和(かじ　まさかず)
◇番　号 :080−4630−8987　（平日 09:00～16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名(匿名可)」「所属家族会(部隊等)」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役職・氏名	担当内容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚　信一(てづか　しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に陸上自衛隊)
家族会理事(海自OB) 鍛治　雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に海上自衛隊)
家族会理事(空自OB) 荒木　淳一(あらき　じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に航空自衛隊)
家族会副会長(陸自OB) 宮下　寿広(みやした　としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！